

調査レポート速報版

# ITプロジェクトリーダーの 時間はどこへ消えているのか？

確認・手戻り・多重負担——PM/PLリーダー層の業務実態と課題の本音

調査実施：2026年6月 / 対象：IT業界のPM・PL・チームリーダー（37名）

本レポートは第1弾調査の速報版です。今後、追加調査・ヒアリング結果を反映していきます。

# 本レポートの構成

01

## 調査概要

対象者プロフィール・業種・企業規模

02

## 時間の実態

確認・手戻り対応が業務時間の何割を占めるか

03

## 何に時間が奪われているか

上位業務ランキングと現場の声

04

## 確認・手戻りが止まらない理由

原因分析と構造的課題

05

## 課題と改善の現状

優先課題・取り組みと限界

06

## 改善ニーズとポテンシャル

半減したらどうなる？ソリューション関心度

# 01 調査概要

200名

総回答数

IT業界従事者

37名

主要分析対象

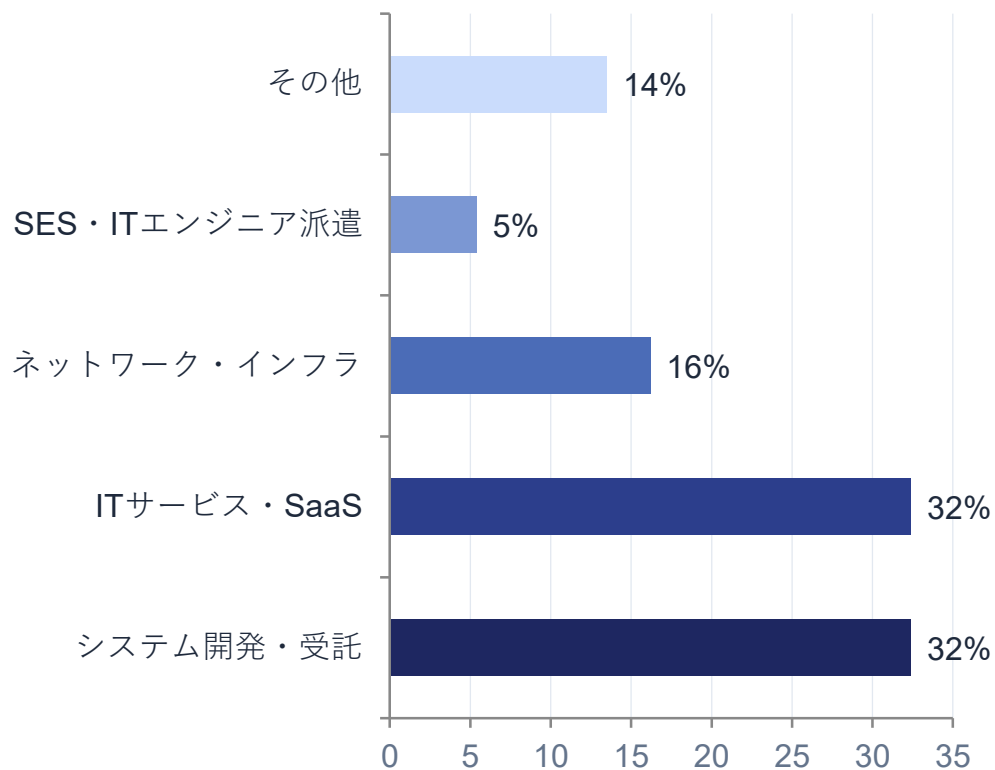
PM/PL・チームリーダー

35.8歳

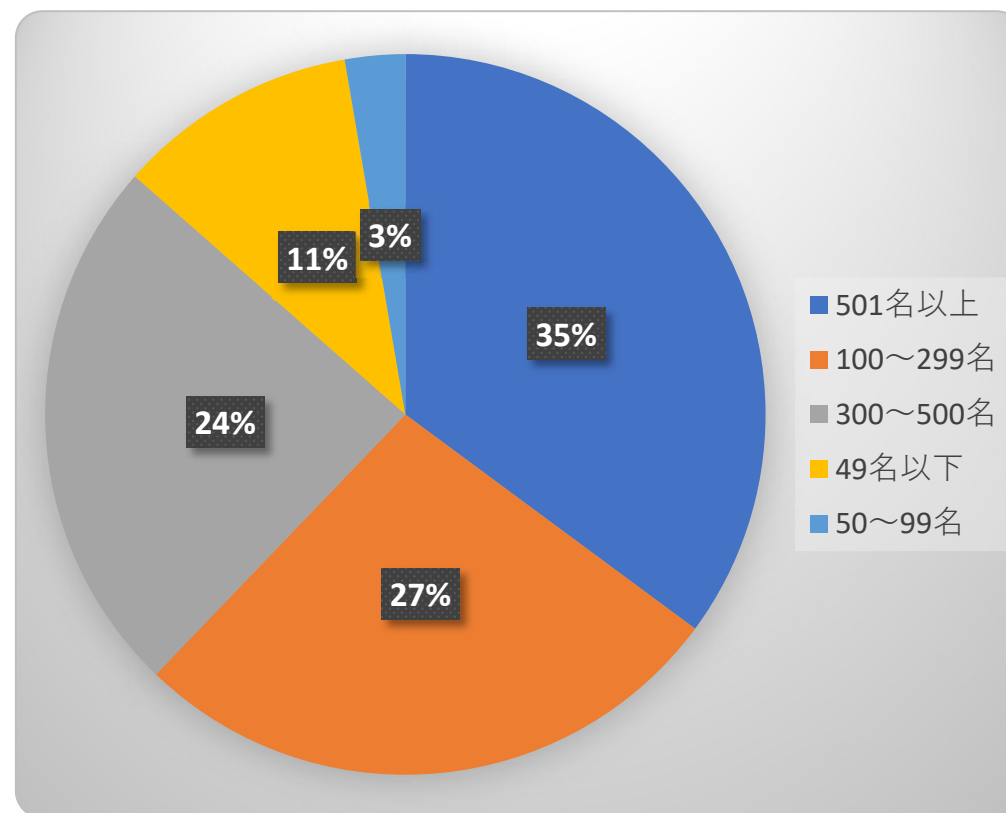
平均年齢

中央値34歳

## 業種構成



## 従業員規模



## 02 時間の実態——確認・手戻り対応が業務時間を侵食する

PM/PLリーダーの

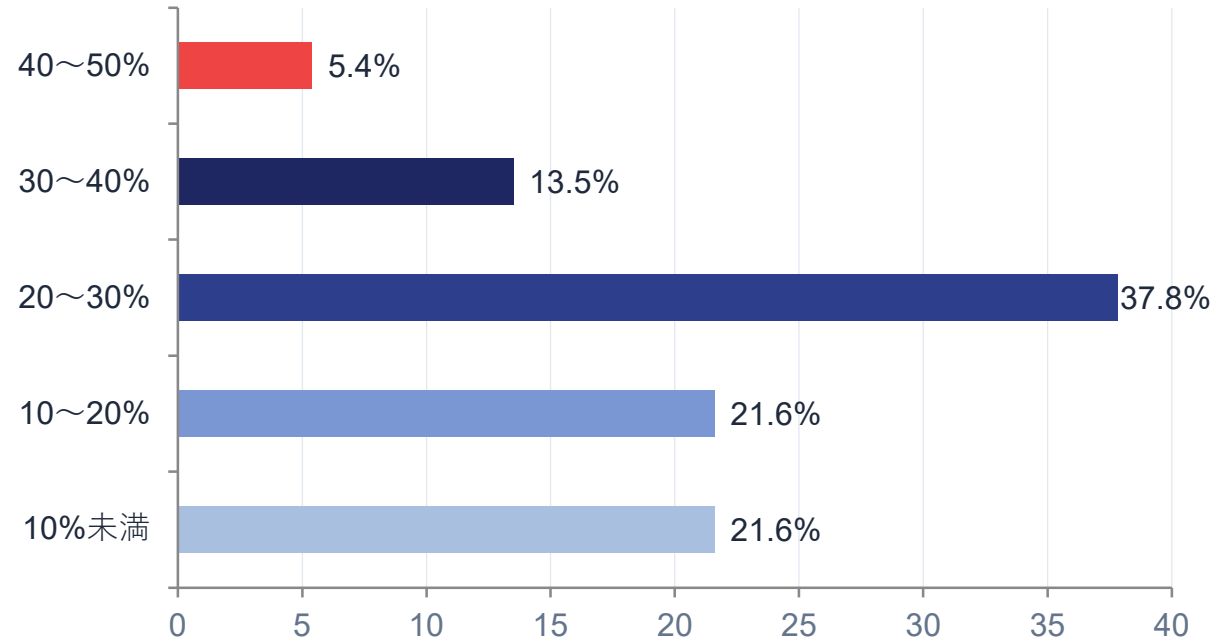
約64%

が確認・手戻り・調整に  
費やされている

(業務時間の20%以上と回答した割合)

対象：PM/PLリーダー37名

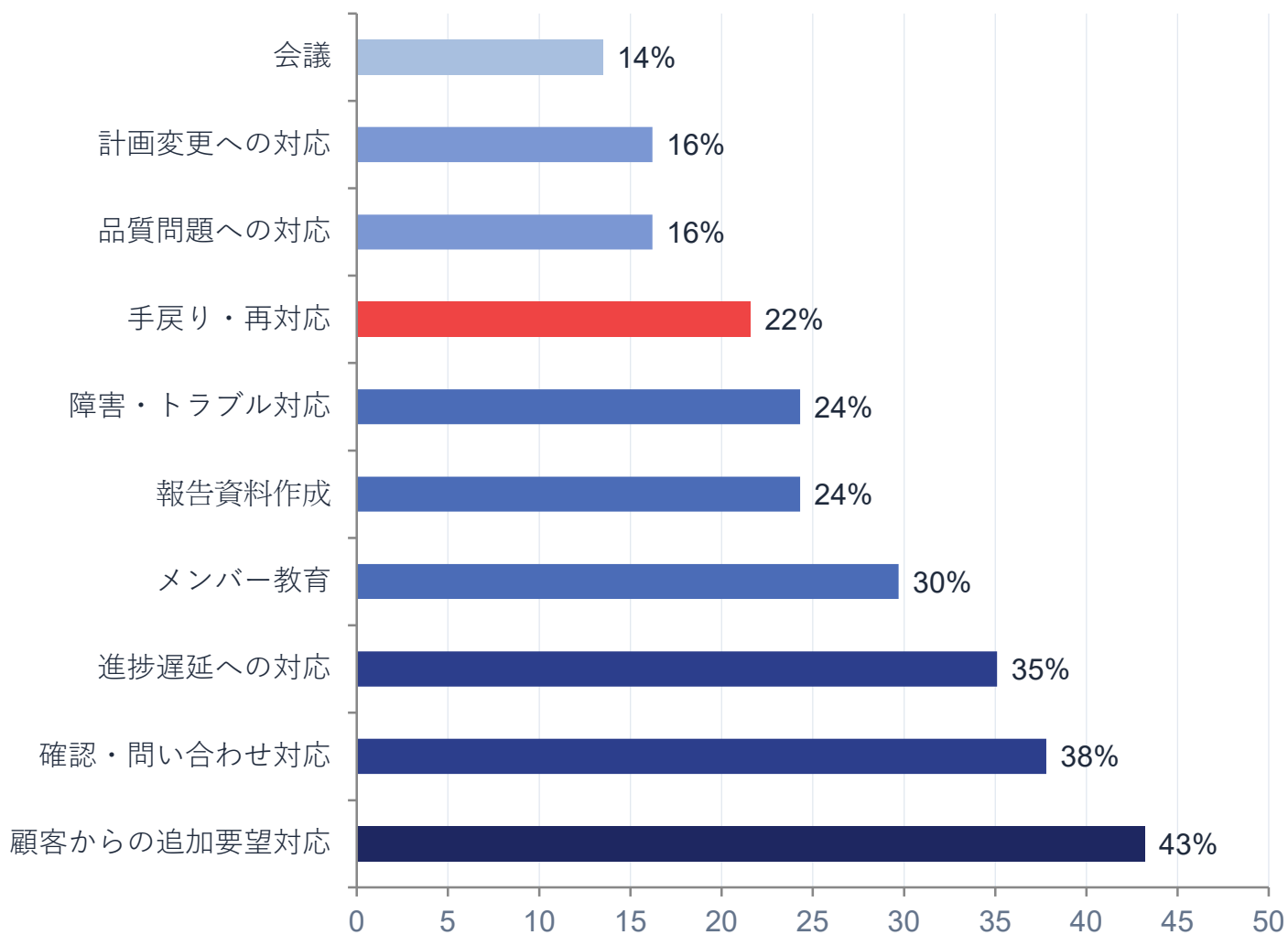
確認対応・手戻りに費やす業務時間の割合



💡 PM/PLリーダーの3人に2人以上が、本来の設計・開発・マネジメント以外の「確認と修正」に業務時間の5分の1以上を費やしている実態が浮き彫りになった。この時間ロスは、チーム全体のスループットと納期リスクに直結する構造的課題である。

# 03 何に時間が奪われているか——上位業務ランキング

## 直近1か月で最も時間を取られている業務



1位  
顧客追加要望対応  
43%

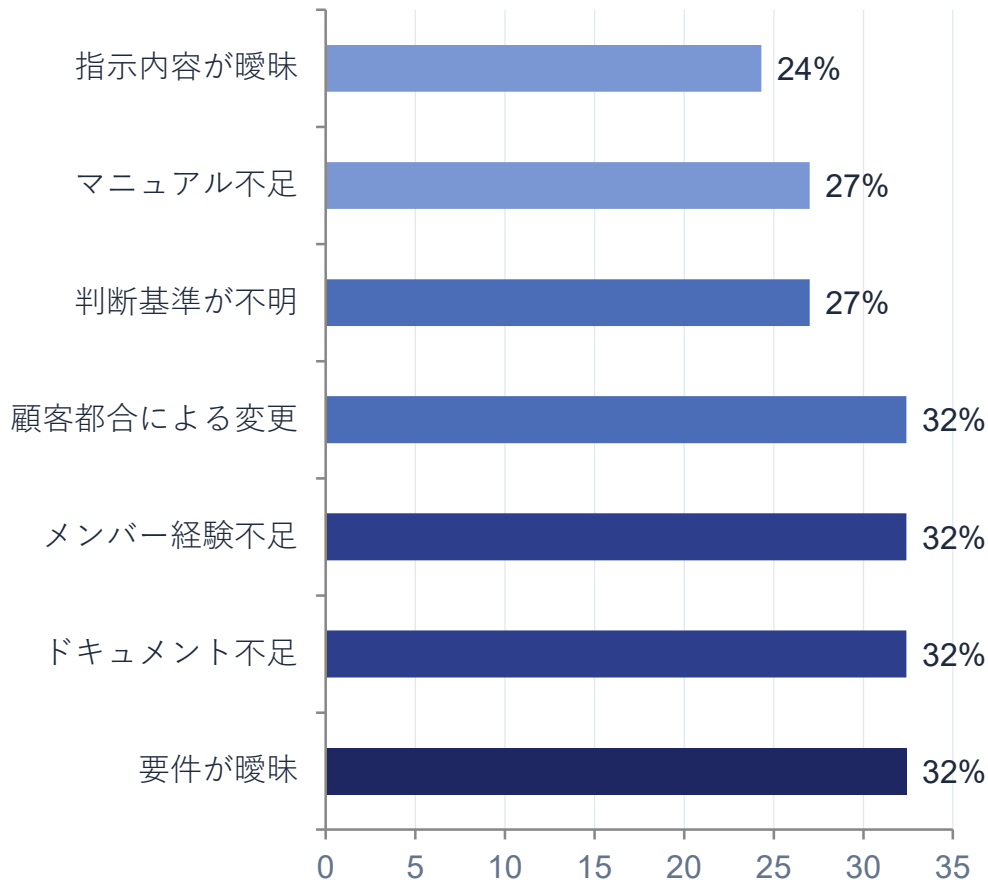
2位  
確認・問い合わせ対応  
38%

3位  
進捗遅延への対応  
35%

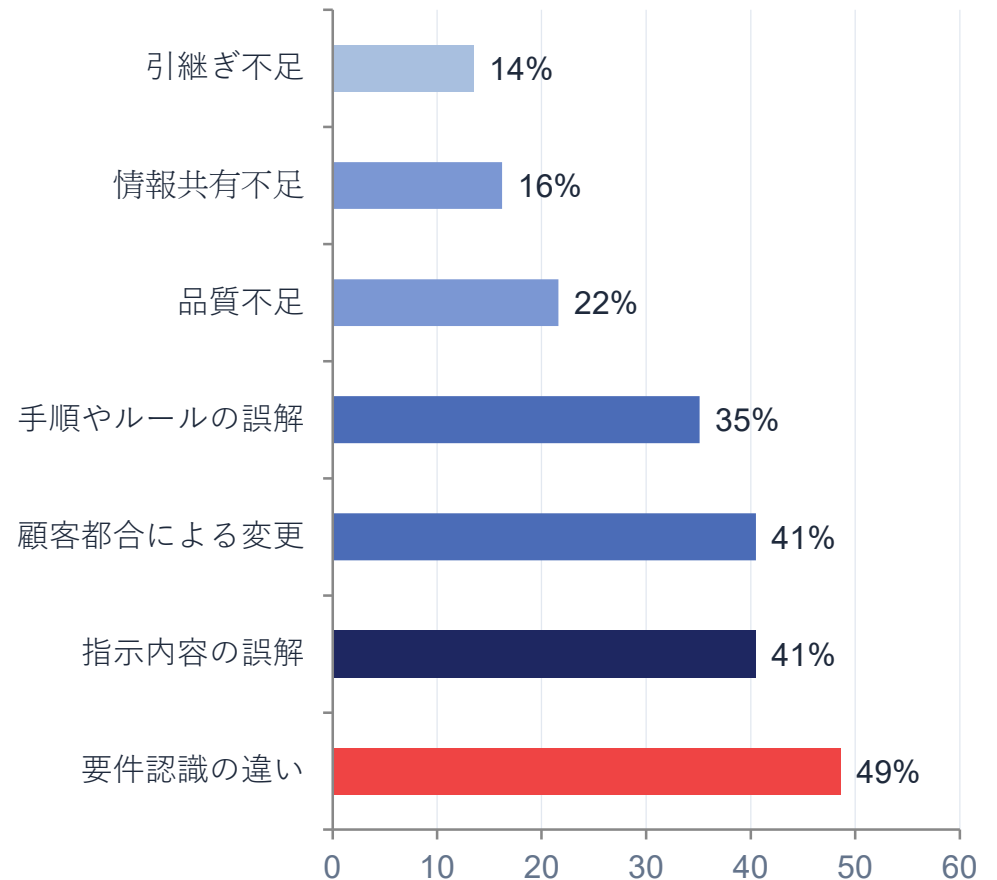
手戻りも7位（22%）にランクイン

# 04 確認・手戻りが止まらない理由——構造的原因の分析

## 確認が発生する主な理由



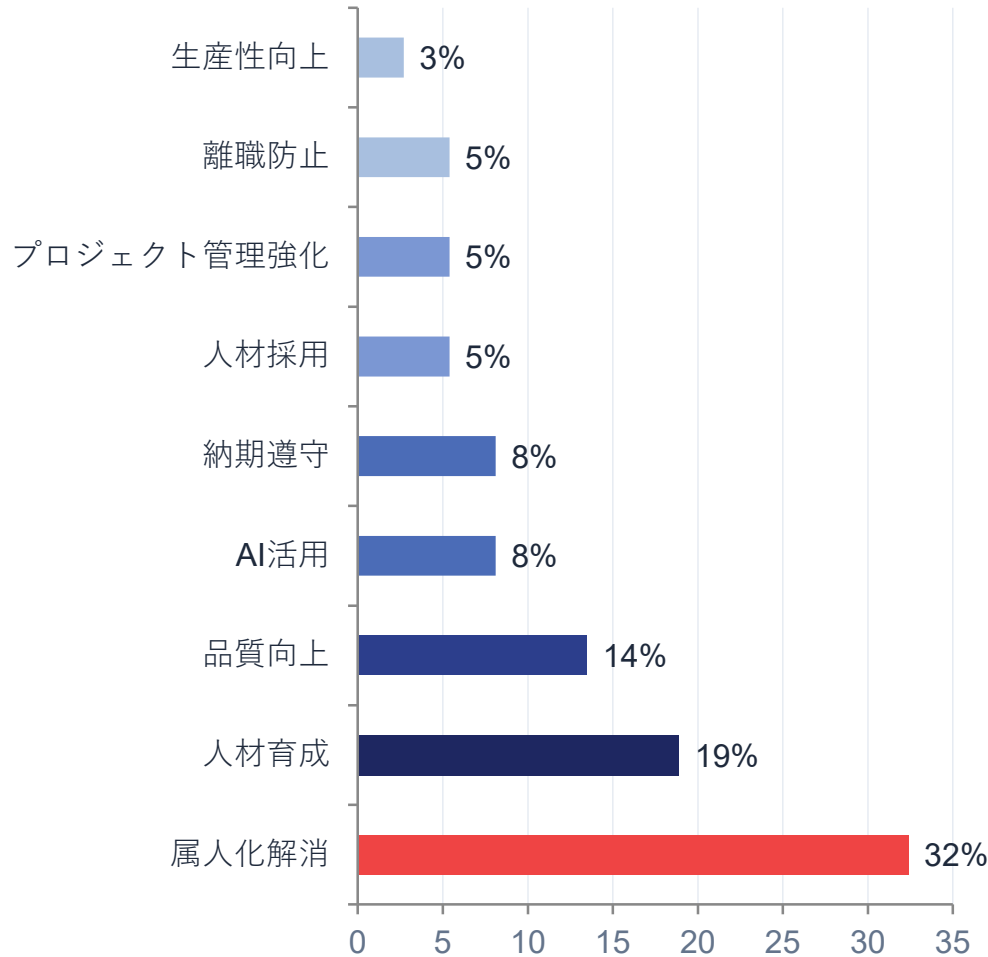
## 手戻りが発生する主な原因



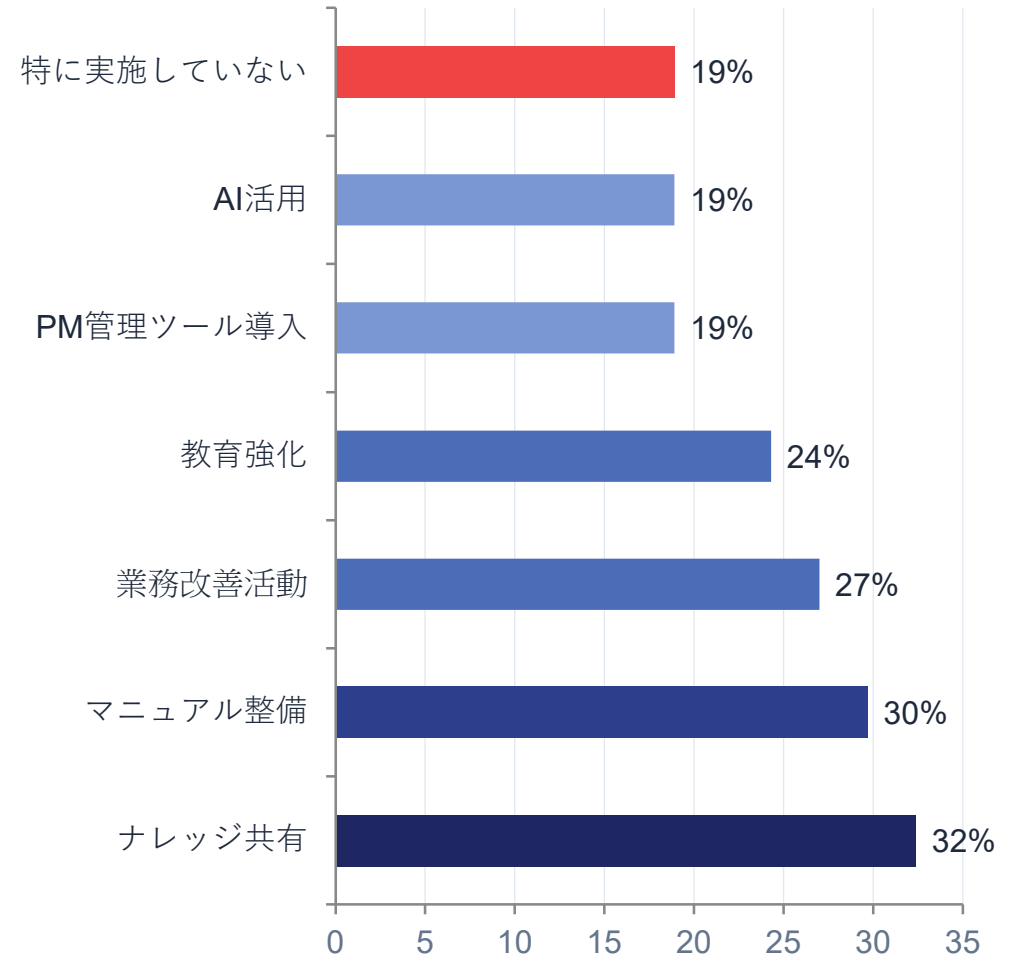
💡 「要件認識の違い」(49%)が手戻りの最大因子。確認発生理由でも「要件が曖昧」「ドキュメント不足」が上位を占める。根本にあるのは情報基盤の脆弱さ——要件定義・仕様書・指示の質と透明性を高めることが、確認業務と手戻り双方の削減につながる。

# 05 課題と改善の現状——何を優先し、何に取り組んでいるか

## 最も優先度が高い業務課題



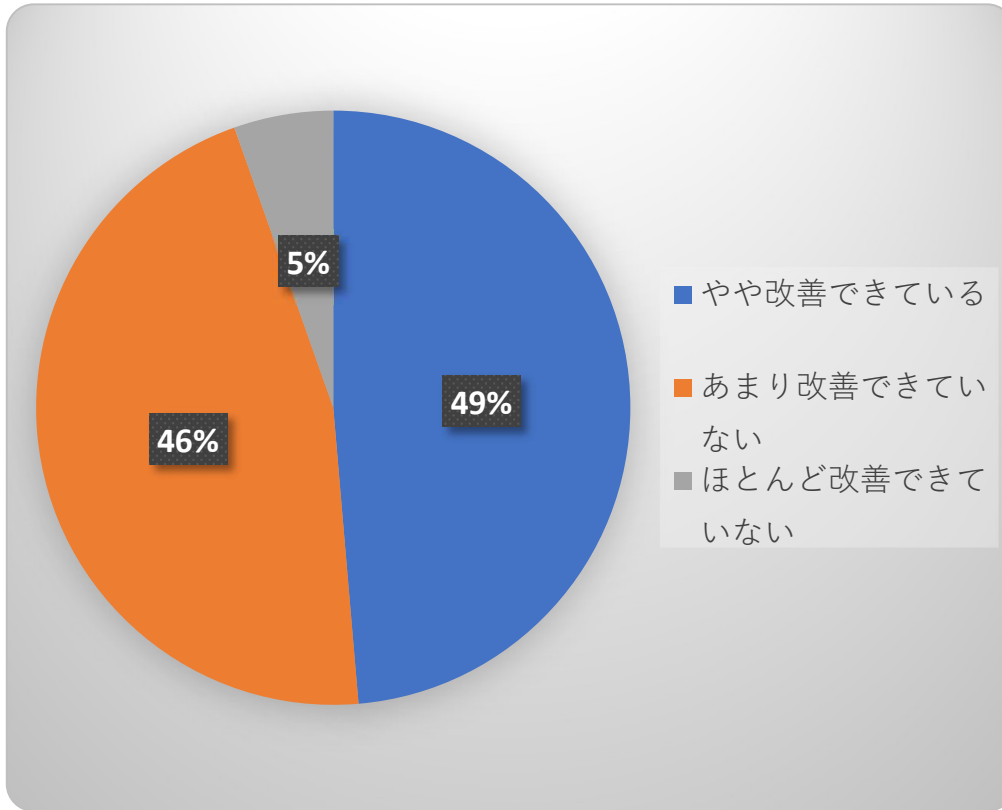
## 現在実施している改善施策



💡 「属人化解消」（32%）が断トツの最優先課題。一方、現状の取り組みは「ナレッジ共有」「マニュアル整備」が主流で、19%はまだ何も実施していない。AI活用は19%と普及途上——課題感と施策の間に大きなギャップが存在する。

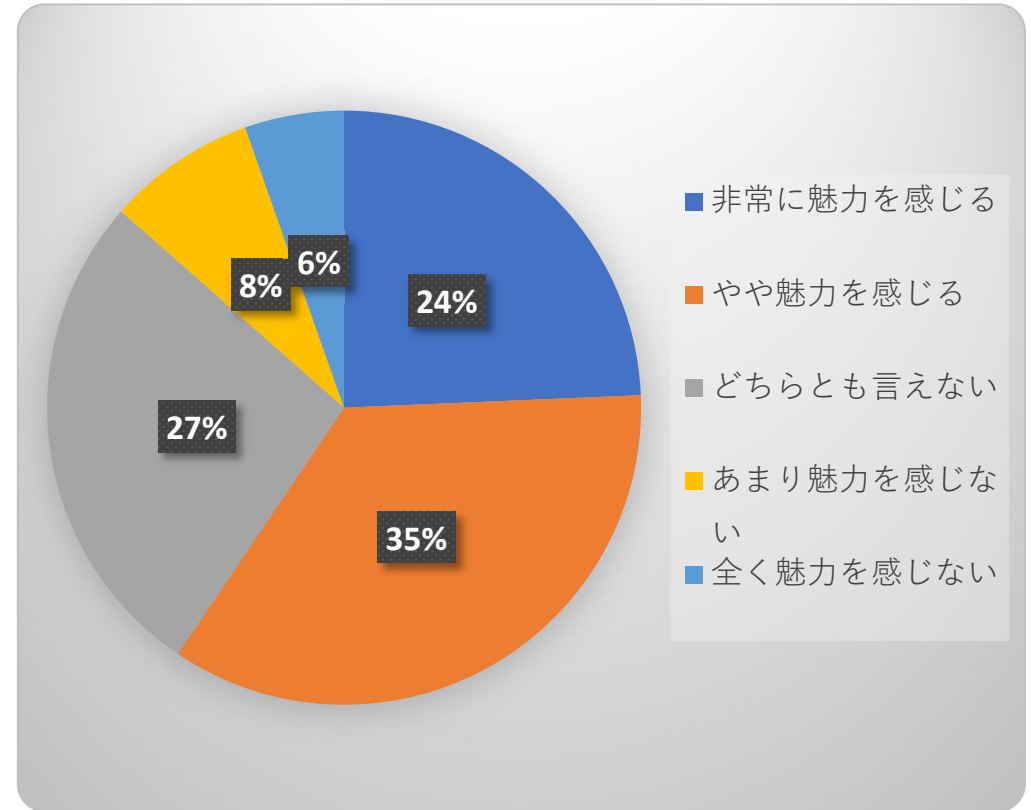
# 06 改善ニーズとポテンシャル——「半減したら？」への反応

## 現在の取り組みで十分改善できているか



改善できていないと感じている：約51%

## 確認・手戻りが半減したら、どの程度魅力を感じるか



魅力を感じると回答：約59%

💡 半数超が現状の改善に限界を感じており、6割が「確認・手戻りが半減すれば魅力的」と回答。また、削減の仕組みへの関心は62%に達しており、適切なソリューション提案が受け入れられる素地は十分にある。

# 現場の声——自由回答から見えるリアルな苦悩

## 情報探索の非効率

「過去の仕様や類似プロジェクトの情報を探し出すことに苦勞している」

## 時間侵食

「問い合わせが多すぎて自分の仕事工数時間が削られる」

## 認識ギャップ

「顧客担当者の理解力不足——上司も部下へ丸投げ、弊社にも丸投げ」

## 本来業務への集中困難

「設計作業に集中できない」

## リソース不足

「人材がとにかく不足。業務量と人材数が見合っていない」

## 要件の複雑化

「システム利用者側の異なる要件の統一化・標準化に苦勞」

# 調査まとめ—5つの主要発見

1

## 業務時間の約64%が「確認と修正」に

PM/PLの3人に2人以上が、確認・手戻り対応に業務時間の20%以上を消費している。

2

## トップ2は「追加要望」と「確認・問い合わせ」

いずれも要件・情報の不明確さが源泉。本質的な課題は情報基盤の不備にある。

3

## 「要件認識の違い」が手戻りの最大因子（49%）

認識のズレを早期に解消できるプロセスや仕組みが欠如している。

4

## 最優先課題は「属人化解消」（32%）

特定人物への依存がリスクであり、ナレッジの組織資産化が急務となっている。

5

## 6割が「改善の仕組みに関心あり」

現状に限界を感じつつも適切なソリューションに出会えていない潜在需要が存在する。

本調査は第1弾の速報版です

# 確認・手戻りを半減させる 次の一手へ

## Zero-Maze

確認・手戻り・再説明を組織から断つ

<https://zero-maze.com>

組織ロス診断を申し込む（無料）

概要資料を請求する